

表紙の説明（半纏と法被）



『印半纏』、
それは長い歴史の中で築かれた『信用』であり、
『仲間』のしるし。

高職、大工、左官、植木屋などの職人たちが着る仕事着で、広袖または筒袖、丈は腰くらいまでの半纏。家紋、名字、屋号、記号などを背中に大きく、また衿にも白抜きにしてあるので、この名があります。大店の主人が盆暮れに出入り職人たちにお仕着せとして与え、また職人の親方が弟子や小僧に支給しました。江戸後期になると職人の制服として定着し、この風習は明治、大正、昭和の初めころまで引き継がれました。現在は消防出初式や古風を重んじる職人の一部に残るのみとなりました。『半纏(はんてん)』と『法被(はっぴ)』はよく比較されますが、法被は江戸時代の武家社会で羽織から派生して生まれ衿を返して着用していたもの、半纏は庶民の間で着用されるようになった防寒着。しかしその後の羽織禁止令がもたで、庶民は衿を返さないで着用する法被や印半纏を着るようになり、さほどの区別も無いままに江戸の人々の生活に根付いていったようです。

広報のお知らせ

HP <https://www.gikodan.co.jp>



Facebook <https://www.facebook.com/gikodan/>



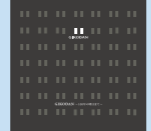
CM 『技工団CM跨りを造る篇』



CM 『技工団CM100年の明日まで篇』
tysテレビ山口の毎週木曜18:15~19:00
『mix』の中で30秒間流れています。



GIKODAN ~100年の明日まで~



メルマガ メールマガバックナンバー



技工団ライブラリー▶メールマガジン



株式会社 技工団

本社：753-0078 山口県山口市緑町6番13号 TEL 083-922-2626 FAX 083-923-5355

技工団



GIKODAN 20-21 REPORT

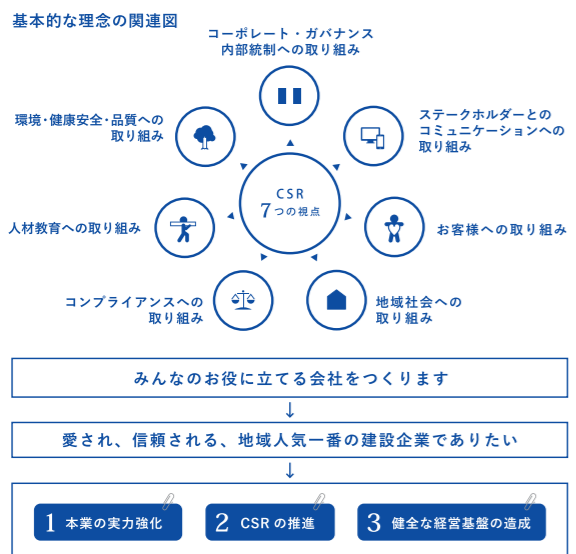
75th
ANNIVERSARY
SINCE 1946

ごあいさつ

こんにちは、GIKODANです。
いつも皆様には大変お世話になっており、本当にありがとうございます。また、私たちGIKODANは、皆様のお陰をもちまして1946年の創業から75周年を迎えることが出来ました。重ねて深く感謝申し上げます。
一昨年末より世界中に襲いかかった新型コロナウイルスCOVID-19、生活にお仕事にご不安とご苦労の多いことと拝察いたします。ワクチン接種が開始され多少明かりは見えますものの、一日も早い終息を迎えられますよう、今暫くは皆様とともに最善を尽くしたいと存じます。
さて、私たちの事業への考え方や思いを、この一年間のCSR活動を含めた活動報告を通して、広く皆様にお伝えすることは、とても大切な事だと考えております。この一年は『もっと強くなってお役に立つ』という合言葉のもと様々なテーマに取り組みました。2021年度は、DXやニューノーマルや人材確保育成などへの社会的ニーズが高まるなか、『教え合う文化』『安心できる職場』『戦略的な取組み』を大事にしていこうと全社全員に掛け声をかけて取り組んでいます。
それでは、2020年度の活動についてお知らせいたします。最近の私たちGIKODANを少しばかりご理解いただければ幸いです。今後とも、変わらぬご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社技工団
代表取締役社長 作間悦次

CSR活動・・・「お役に立てる」



GIKODAN

75th
ANNIVERSARY
SINCE 1946

おかげさまで
75周年
ありがとうございます

自然体です、技工団。

基本理念
『みんなのお役に立てる会社をつくります』

まずは1946年5月創業以来75年にわたり事業が持続出来たことに、お客様をはじめ、お取引先様、社員・OBの皆さん、株主の方々、地域の皆さんなど、全てのステークホルダーの方々に対して深く感謝申し上げます。社内でも、『良い年にしよう、創業75周年。今期の成果と先への強化との両立で、次の大きな節目100年に向かってスタートしよう!』と呼びかけています。コーポレートソング『GIKODAN～100年の明日まで』の中でも、『100年の明日まで この街が 微笑みかけてくれますように 僕らは 今日の夢をひとつずつ 語ればいいさ』と世の中に伝えていきます。現状A地点→ありたい姿B地点の実現に向け、ベクトルを合わせて全社全員が一丸となって精進してまいります。

技 工 団

という名前は、実は中国でつけられた名前のようなのです。『技』は技術者、『工』は中国の言葉で労働者を意味する工人、『団』は組織を意味しています。当社の創業は終戦間もない1946年、満鉄引揚者の『技』と『工』が団結し、荒廃した国土の再建に当たったのがはじまりです。
『愛され、信頼される建設企業でありたい。自然との調和を大切にしながら、確かな技術で地域の皆さんのお役に立ちたい』とも思っています。そして、地域の皆さんに必要とされる企業であることができるかどうか。いつもこれが私たちのモノサシです』

1946年 5月	創業
1948年 3月	株式会社新日本技工団を設立
1952年 5月	株式会社技工団に商号変更

技工団の芽生えは、実は、中国大陸での出来事でした。

創業者の作間正朝は、1932年、現在の熊本大学工学部の前身である熊本高等工業土木科を卒業し、その当時の若者たちが夢を抱いていた旧満州である中国東北地区に渡り、南満州鉄道株式会社に入社しました。鉄道建設の技術者として、また管理者として、身を奉じておりましたが、第2次世界大戦も終局に至り、1945年8月15日終戦。8月24日には、錦州鉄道局前の厚生会館に監禁されるという事態となりました。この時、若手の助役を集め、「日本に帰っても、永く故郷を離れていた我々には、知人も地盤もないから、立ち上がるのは、非常に難しい。日本に帰っても、分散することなく、団結して、我々の技術を活かして、戦後の日本の復興に努力しよう。大切なことは、団結の力である。」と、誓い合いました。これが、今日の技工団の精神的な芽生えだったのです。

その後、軍により使役労働が要求されましたが、不公平にならないようにと、『錦州日本人技術建設団』という組織を結成し、組織として、軍からの、飛行場建設、鉄道建設、建物建設、道路建設などに応じました。このことは、その当時の日本人の生活に大きなプラスとなりました。技工団の組織としての芽生えともいべきものでした。1946年、日本人送還の責任者であったため、最後の引揚げ船「雲仙丸」で、団員500人とともに、日本に帰る時がきました。一週間かけて博多港に入港。その時、船上から見たものは、博多の街の廃墟と化した惨状でした。そして、このような状況が、団結して国土再建に努めたいという先の考えをいっそう強いものにさせ、その実行を決意させました。

『合作社技工団』の誕生です。
役員、幹部は、選挙で決め、現役以外は認めないという仕事集団です。仙台、金沢、名古屋、大阪、山口、徳島、博多、松江に地方団を作ることになりました。山口の技工団は、257人。北海道、沖縄の出身者も参加しました。そして、食べるための苦闘が始まったのです。島根県の旧日原町、今は観光で有名になった津和野のとなりの町です。この地で、島根県庁から道路の改修工事があるがやってみるかとの話があり、受諾。この仕事は、技工団のはじめての仕事になりました。

以来、元々の鉄道建設の技術力で現在のJRの沖の山専用線、宇部小野田線、伊佐専用線などに参入、宇部地区工場群や炭坑探炭作業などへの参入、美祢や北九州の鉱山への参入、国・県・市町の仕事への参入などにも機会を得ました。その間、もちろん失敗も多くありましたが、土木・建築の設計・施工・維持管理、石灰石鉱山の採掘を中心に、現在に至っています。



▲ 面白い記事がありました。『ガーデンシティ論』・・・パークロードなのでしょう？

SYMBOL MARK



シンボルマークのお話をしてみましょう。最初の社章は創業者が若い時代に奉職していた満鉄への思い入れがあったのでしょうか、似ていますね。満鉄のシンボルマークは『レールの断面+満鉄のM』とのこと。30年前ぐらいでしたでしょうか、世の中はCIブームさなか、社名を変えたりロゴタイプやシンボルマークを変えたりが流行りでした。色を使って表現してみようということで、色々物語があったのです。結局今の『Blue&Red』が採用されました。確かその時に、『自然体です、技工団』というコーポレート・ステートメントも採用された記憶があります。そして2008年リーマンショックの直前に『技工団』という社名と隷書体が醸し出すイメージが、とくに建築営業に少し難しい場面があり、ローマ字表記を取り入れてロゴタイプ・シンボルマークを変更しました。いつも言っていますが、決してトリコロールではなく二つの色の組み合わせなのです。そして、『Blue&Red』は、相反するものを示し、時には矛盾することも受け止めながら、答えを出し、解決していく意志を示しています。』と説明されています。

新山口オフィス設置・新山口北口オフィス検討



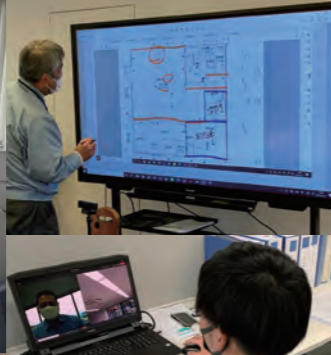
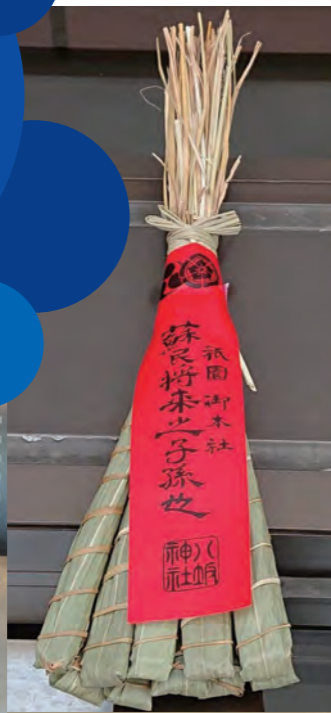
2021年4月にオープンしたKDDI維新ホールMegribaのワークスペースに新山口オフィスを設置しました。日頃の活動の中でここにハブをもってネットワークを良くしてみようと思っています。もともとJR新山口新幹線口に営業所があったのですが十数年前に本社に統合し廃止、あらためて山口県中部のハブとして成長していく地に拠点をおいてみたのです。色々試してみます。もうひとつ、新山口北口オフィスも計画しています。試行がうまく進めば、発展的に次の段階に進むことを考えています。場所は長谷ICアクセスロードと国道9号の交差点の角地で昨年度すでに取得して、基本的には収益物件として建設しますが、一部は自社サテライトオフィスなどの活用も良いと思って色々と考えています。

新型コロナウイルス COVID-19感染拡大回避

手洗い&手指消毒・毎日検温記録
マスクやパネルで飛沫防止・十分な換気など

ワークスタイルの変革

リモートワーク、Web会議、ビデオ通話
オフィス執務環境の変化
社会・マーケットニーズの変化



コロナ禍に教えられたこと

新型コロナウイルスCOVID-19に振りまわされた一年でしたが、教えられることも数多くありました。会議や打合せもリモートで出来ることを試すことができ、メールでのレポート&レビューも適切だと感じさせられるケースがあることも分かりました。逆に対面でないとうまくいかない大切なやりとりなどが少なからずあることも強く感じさせられました。また色々なアイデアはリアルな雑談の中から多く飛び出していたんだことも気づかされました。DXやリモートワークを駆使しながらも、最終的には私たちの仕事はリアルな生産活動を通してモノづくりをお客様や地域社会に提供していくことで「お役に立てる」ことが本分であることも改めて認識出来ました。この一年で鮮明になった時代の変化、社会ニーズの変化、マーケットニーズの変化、お客様ごとのニーズの変化などに対して、私たちの強みと弱みなどを踏まえた上で、スピードアップして環境変化に後れを取らないように、将来のありたい姿を再構築、実現していきます。

DXへスピードアップ、リモートワークの確保

DX面では例えば、ドローンの活用が日常化し、土木ICT施工実績も積み増しています。また、施工管理システムの活用フィールドが拡張、BIM・CIMの試用や、鉱山部検収システム・Web請求システムの導入、お客様管理システム活用開始・小規模工事情報共有参加、RPAなど、できることからトライ&エラーを繰り返しながら、ワークスタイルもどんどん変化しています。リモートワーク面では、経営会議・合同委員会などはWeb+ライブ併用会議で開催、ビデオ通話は工事部の施工検討会などで推進・日常化。感染症等へのリスク低減や移動時間の減少・交通事故リスク低減など効果は大きく、また打合せやセミナーなどでも参加機会が増大する効果も大きいです。今回のコロナ禍で感染症は永遠には無くならないことを学んだわけで、リモートワークを常に可能にしておく備えが必要です。BCPにも感染症対策につき追加充実が必要です。コロナ禍で急展開したDXニーズに対して、リモートワーク確保、業務の見直し・効率化、新しい業務方法へ展開していますが、「DXに関する基本的な考え方・ありたい姿」をもう一度見直しして対応していきます。この時一方で、残すべき重要なリアルなコミュニケーションの有効性を認識し、効率的かつ有効に対応します。

社会・マーケットニーズの大きな変化の想定が肝要

一方で、今回のコロナ禍は社会ニーズやマーケットニーズに大きな変化を与えそうです。Web活用した広報活動も含めてマーケティング戦略をしっかりと捉え直す必要があります。企業を变幻自在に変化させて身動きがとれるようにしておくことが肝要です。また、感染症が「集中から分散」のトレンドをつくり、DXやリモートワークがそれを可能にすることで、結果としてローカルマーケットにも可能性を与えてくれるチャンスだと考えておきます。感染症対策のほかに従前より、二酸化炭素排出などによる気候変動、大量消費による資源枯渇、地震・火山活動、戦争・暴動などから、防災・減災・国土強靱化、脱炭素・カーボンニュートラル・スマートエネルギー社会化・産業廃棄物ゼロ社会化、地震回避の動き、インフラ新設から長寿命化・リノベーション需要増大など、私たちのまわりにも課題が山積しています。今回の防災・減災・国土強靱化5か年加速化計画は、さしめ官需の仕事として恩恵を被ることも考えられますが、その後は官需漸減・横ばい、メンテナンス比率の増大が想定されています。また地震を例にとると、日本経済の中心が東京へ偏るとすると地震津波リスクが低いのは山口県中部と岡山県だけで、地震回避の動きは山口県中部にとってはプラス要素でチャンスだと思えます。このように、環境問題・環境変化は、企業活動をマクロ的には方法的にも経済的にも制約すると同時に、ニッチ的にはチャンスとしての方向としても働き、またマーケットニーズの変化に大きく影響すると考えられ、マーケティング戦略をしっかりと捉え直していきます。

これから

いずれにしても建設の仕事はエッセンシャルワークであることが再認識され持続が望まれています。再来する感染症などあらゆる困難な場面にも対策を確保しながら、質の高いインフラ整備・維持、災害対応を継続していく社会の要請を再認識しました。また、CSRも元々環境報告から発した企業社会的責任論、ESGは環境E・社会S・ガバナンスG配慮経営、SDGsは国連による2030年に向けた持続可能な開発目標。私たちは、ESGもSDGsもCSRの中で大きく受けとめて捉えることとします。これからは、「建設業は環境ビジネス」という視点から、積極的に取り組みするスタンスも良いと考えています。ワクチン接種がスタートしています。コロナ禍では色々教えられることが多く、考えさせられることも少なからずありました。定期報告や会議の多くもメールでのレポート&レビューへ替えて廃止し、リアルな会議はアイデアを飛び交わせる場に変えてみました。結構上手く回っています。ワクチン接種が順調に進むことを願うばかりです。

佐波川 睦美橋

開通式

新しい睦美橋が完成し、令和3年(2021年)3月13日に開通祝いの「お披露目式」が開催されました。昭和36年(1961年)に完成した防府市道中塚真尾線の睦美橋は、60年間の役割を終え、新しく生まれ変わりました。架け替えて佐波川の流下能力が向上し、橋梁の幅員を広げ利便性も向上、小野地域の文化拠点になることが期待されます。

「お披露目式」では、国土交通省の山口河川国道事務所から工事概要について説明されたあと、来賓の方々のお祝いのあいさつがありました。近くの小野小学校や小野中学校の児童・生徒さんたちや地域の皆さんも大勢参列され賑わいました。式典のあと、「渡り初め」。



CSR活動を7つの視点からレポートします。

1 しっかりした体制、確実な仕事。
～コーポレート・ガバナンスと内部統制への取り組み～

『Web会議・ビデオ通話の日常化』

一昨年の暮れからのコロナウイルス感染拡大の中で、リアルな生産活動を通してモノづくりをお客様に提供していくことが本分である私たちでも、可能な限り人と会うことが憚られリモートワークが求められました。定例会議の多くについてメールでのレポート&レビューなどに振り替えることを余儀なくされましたが、逆にWeb会議やWebセミナーは施工検討会など参加・受講機会を増大させてくれ、週頭会議など集合会議の廃止や開催目的の見直し、ビデオ通話で営業部と工事部などの連携や機動性の向上などの機会ともなりました。

『2020年度キックオフ』集合会議・パーティは中止

2020年度基本計画配布だけでも全員の意識共有は結構十分にできました。12月から3か月間の十分な策定プロセスが有効だったのだと捉えています。

『2021年度基本計画策定会議』、『2021年度キックオフ』はWeb会議で開催

3か月の時間と6回のライブ+Webでの策定会議を経て完成、3月16日にメールにて全員に伝えました。4月1日にはWeb会議でキックオフミーティングを開催。新しい試みとして次の2022年度から基本計画策定作業のリード役を経営支援室に委譲しました。

BCP事業継続計画の認定維持と、感染症対応とニーズ

ガバナンス・内部統制もコロナ禍を経験して見直し改善していきます

人事制度はその理解と運用強化を推進し、さらに分かり易くキャリアアップ効果あるものに改善していきます

2 Communication
～ステークホルダーとのコミュニケーションへの取り組み～

『広報活動』の充実とベストミックスへ

メルマガは現在5500名の皆さんに毎月15日に配信、目標は20,000名。TVCMはコーポレートソング『GIKODAN～100年の明日まで～』に載せて原田侑子さんのナレーションも入ったムービーを制作し、毎週木曜18時台『tys MIX』で流れています。

技工団災害防止協会の活動はコロナ禍で低調でした

安全祈願祭は正副会長と技工団幹部で参りして、会員の皆さんにはお礼をお配りするなど縮小して開催、また定時総会・懇親会、親睦ゴルフ会、安全衛生大会、安全祈願旅行は中止しました。そこで、会員の皆さんとの『絆』を確認し合おうと会員事業所のロゴ入りのTシャツを制作し、協会の会員とGIKODANの社員の全員に配布しました。

3 お役に立てる
～お客様への取り組み～

『定例打合せ』、しっかりやっています好評です

全工事に開催しています。お客様と関係者との思いが細かに共有でき、変更にもスピーディに対応、良い効果が認められます。

イノベーション、ワークスタイルの変革が進んでいます

ドローン活用が日常化、土木ICT施工実績も積み増しています。また、施工管理システムの活用フィールドも拡張、BIM・CIM試行、鉱山部検収システム、Web請求システムの導入作業開始、お客様管理システム活用と小規模工事(B工事)情報共有、タブレット・ノートPC活用の普及・常態化など、出来ることから着手しています。



4 地域とともに
～地域社会への取り組み～

地域勉強会・見学会などへの参加、地域活動・地域行事などへの参加・協賛など

山口大学グローバル環境・防災研究会や建設産業出前講座など、山口大学・県内高校・中学校・小学校など地域の学校との勉強会・見学会など行事に参加・協力しています。地域行事はコロナ禍で低調でした。

5 Compliance
～コンプライアンスへの取り組み～

一昨年の暮れからのコロナウイルス感染拡大に対して、国・県・市や取引先企業などからの指示を遵守、飛沫防止パネル設置・手洗い・マスク・毎朝検温報告・三密回避・リスクな五つのケース回避など感染防止に努め、県歩き移動の自粛、事業所間往來の自粛、Web会議活用、SNS・TV等を活用した広報活動充実に努めました。

6 人づくり
～人材育成への取り組み～

『5年プログラム』へのシフトアップ作業を進めています

2021年度のキーとなるテーマとして、等級基準の等級ごとの違いを分かり易くし、また厳しく運用することでキャリアアップを強力に推進していきます。コロナ禍でWebセミナーが充実し受講機会が増大し大いに活用出来そうですし、皆のニーズから『教え合い、学び合う』という新たなありたい姿を示しました。運営会議体制が少しずつ機能して部内の良い関係が進みそうだと感じています。新たな作業所内部監査要領の試行や内部監査員増強などには、部長と作業所長の適度な距離感が保てる間柄が出来そうで自律感向上も含めて期待しています。小規模工事(B工事)体制強化テーマを推進し、営業日報・お客様管理システムによるB工事情報共有で営業部・工事部連携強化を図ります。積算体制・設計体制・サプライチェーン体制強化、管理部と経営支援室の連携強化などは引き続きありたい姿に向け改善強化を図っていきます。一人業務回避も確実に進めています。

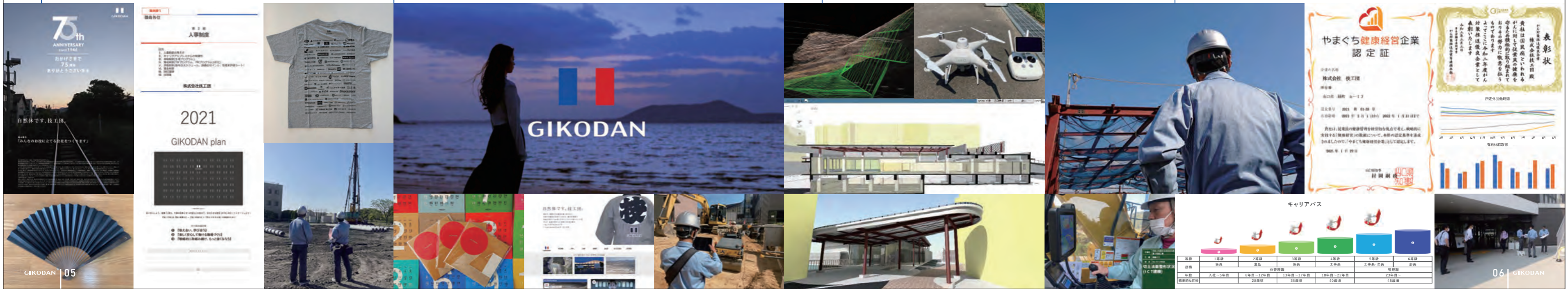
人材確保と力量の育成

求人活動(新卒・中途・派遣)・受入れ体制の強化、社員(技術者・技能工)の力量レベルの確保、協力会社の技能工の高齢化・不足と補充・新陳代謝の必要、地域内の同業の淘汰加速、ICT・DXなどイノベーション加速による生産性向上の可能性、人生100歳時代や社会保障制度への不安などを考慮していかなければなりません。

7 環境・健康安全・品質
～環境・健康安全・品質への取り組み～

働き方改革、進んでいます

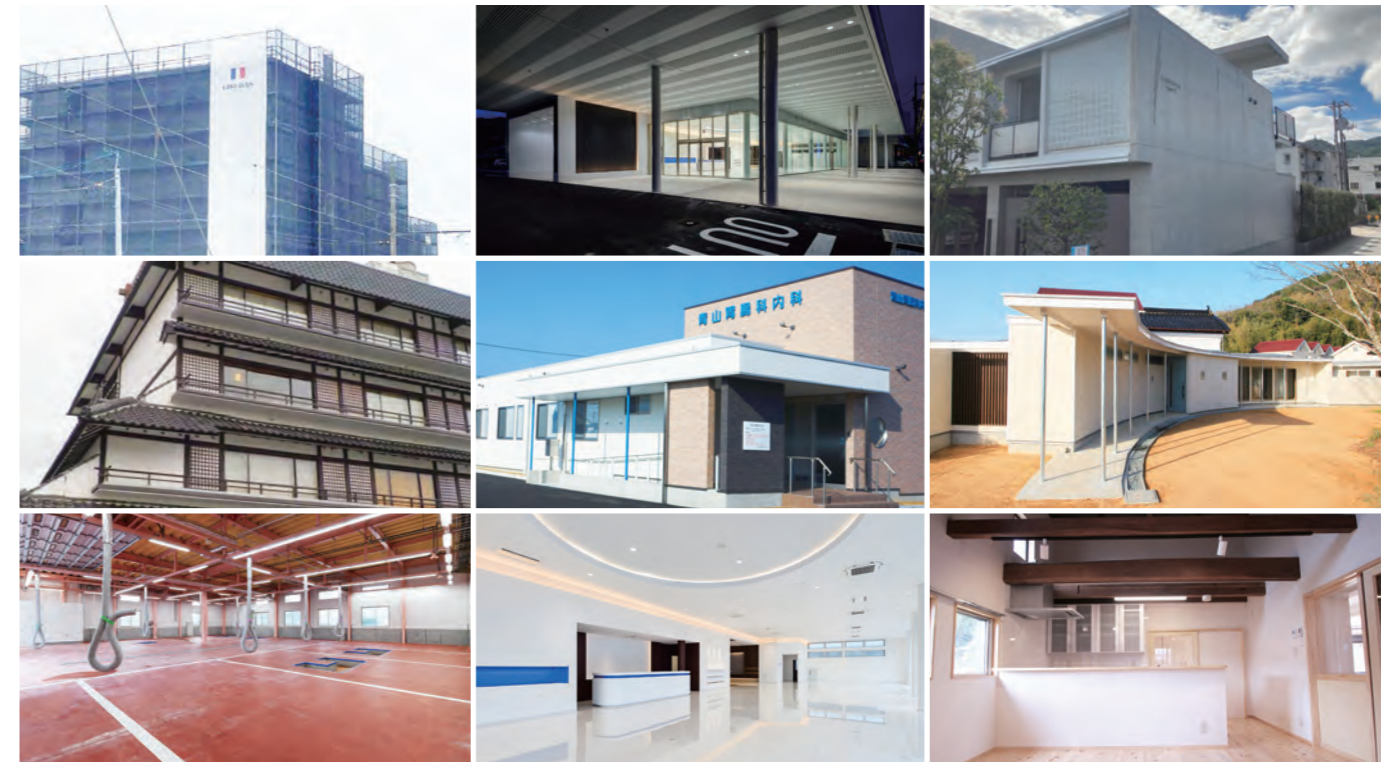
働き方改革については、休日・休暇の確保はここ二年で特筆すべき程に良化、70歳まで元気で楽しく長く働くという方向付けは出来たもののそれには家族を含めた健康が肝、ユースエール認定チャレンジは少しハードルが高いですがかなり近づけることができ、このことにより働き方改革基準は大きくクリアできています。安全健康については、休業災害ゼロが2014年6月より継続中。健康経営企業認定更新中、がん対策推進企業アクションでは、がん対策推進優良企業表彰を受けました。国連が提唱しているSDGsや、証券市場が賛同しているESG、社会価値向上を目指すべきというCSVも、いずれも社会からの要請としてCSRの考え方の中で受けとめ、どう応えていくか、問題解決していくか、十分に配慮して計画や目標を立案します。CSRを戦略的に捉え、未来に向けた無形財産への投資ということで積極的に取り組んでいます。また、これからは『建設業は環境ビジネス』という視点から積極的な取り組みをするのも良いと考えます。



 Civil engineering



 Architecture



 Mining



2021年度キックオフ!

2021年4月1日に全社全員が集合して氣勢を上げたキックオフ・ミーティング、新型コロナウイルスCOVID-19感染拡大防止のため、今年度はWeb会議で本社・鉱山部・各作業所を繋げて開催。

2021年度全社重点目標

1 『教え合い、学び合う』

- 教え合い、学び合う
- どうしたら出来るか?
- わからないを放置しない

2 『楽しく安心して働ける職場づくり』

- 期待される姿(等級基準・5年プログラム)
- 楽しく安全に働ける職場づくり
- 笑顔・あいさつ・大きな声
- 生涯プログラム活用
- 働き方改革の真の目的
- 健康経営とコースエール
- 4週8休が基本
- 扶養手当と住宅手当拡充
- 休業災害ゼロ持続

3 『戦略的に取組み続け、もっと強くなろう』

人材確保と個人力の育成強化

- 『人』の確保・育成が一番
- 等級基準を分かり易く示す
- 『5年プログラム』
- 業務要領重要→継続的改善
- 新卒・中途・派遣の採用強化
- 40歳代で5等級目指せ
- チャレンジ所長制度

組織・体制力の強化

- 戦略的取組み、成行きはNG
- お客様にとっての価値重視
- 定例打合せで評価向上
- リノベーション営業
- 入口・取組・受注・施工検討会・定例打合せなどの強化
- マーケティング力強化
- 工事評定点アップ・表彰
- 提案力の強化
- ネットワーク力強化・多様化
- B工事(小規模工事)重要視

次世代構築

- ガバナンス・内部統制の強化、基本的な考え方の浸透強化、文書化の推進
- 方針目標の浸透～個人までブレイクダウン
- 打合せ協議結果の伝達・反映
- 承認・決裁の内部統制整備
- GIKODAN standard 蓄積整備
- 数値目標達成への具体策明示
- PDCAのCとA重点点検
- 文書化で持続性強化

イノベーションへの取り組み

- DX推進
- リモートワーク確保×リアル大事
- 検収・Web請求書システム
- 新技術

CSR・マーケティング・ブランディング 広報活動の推進

- Information Now 積極参加
- ESG・SDGs・CSVとの関係
- コミュニケーションカ・ブランディング活動推進

guest message



宇部興産株式会社 代表取締役専務執行役員
建設資材カンパニープレジデント
小山 誠 様

創業75周年ならびに「GIKODAN REPORT 20-21」発行おめでとうございます。技工団と当社は、伊佐セメント工場の歴史とともに歩んできました。戦後もなく、碎石時代の伊佐から宇部へ石灰石を貨物輸送する為の引込み線の敷設から始まり、その後石灰石鉱山の採掘・積込・運搬作業を担って頂き、現在に至っています。私自身は、約10年前に金山台鉱区開発プロジェクトリーダーとして、基本設計と進入路工事において、技術・工事の皆さんと苦業を共にさせていただきました。全体工事は18年に完成し出館を開始しましたが、会社人生で一度あるかないかの大工事のスタートを一緒に出来たことが人生の宝として残っています。鉱山・工場の運営は、地域の理解・協力のもとに成り立っており、まさに当社の創業の精神である共存同栄、言い換えればCSR経営の実践そのものです。作間社長を始め、皆さんが現在、積極的に実践されているCSR活動については非常に頼もしく感じているとともに、それがさらに深化し、今後の事業の発展に大きく寄与することを切に願っています。環境変化の大きな時代になりましたが、社員の皆様の健康と安全、そして80周年、100周年に向け、益々発展されることをお祈り致します。



技工団労働災害防止協会会長
サンヨー宇部株式会社
代表取締役社長 楠見 陽一 様

創業75周年おめでとうございます。私は2年前から、技工団労働災害防止協会の会長を拝命しております。建設業界では、他の業界と比べて新型コロナウイルスの影響が少ないと言われていますが、2020年には自らの生活様式、優先順位や価値観を変えざるを得ない状況となりました。協会におきましても定時総会、安全衛生大会、安全パトロール等の殆どの行事を中止しました。コロナ禍の活動であっても、技工団の取組まれている活動は継続できる企業づくりのため、どれも必要不可欠なものだと思います。DXをはじめワークスタイルの変化に取り組みながら、お客様と「より良いものを作り上げよう」とする定例打合せやアフターフォローに注力されていることが分かります。お客様をはじめとした地域社会との信頼の深化を感じます。また近年、毎年のように大規模な自然災害が発生しています。そのため、地域のインフラ基盤を支える建設会社の役割がより重要になってきていると思います。技工団は土木・建築だけでなく、宇部興産の伊佐鉱山において石灰石の採掘事業を担っています。UBEグループである弊社は、その石灰石を主原料とするUBEのセメントを使用して生コンクリートとコンクリート製品を製造しています。これを地域に提供することで、技工団と共に国土強靱化に貢献したいと思っています。最後になりますが、技工団の事業は地域社会にあらゆる場面で関わっており、これからも「みんなのお役に立てる企業をつくる」技工団のCSR経営に、より一層期待しています。



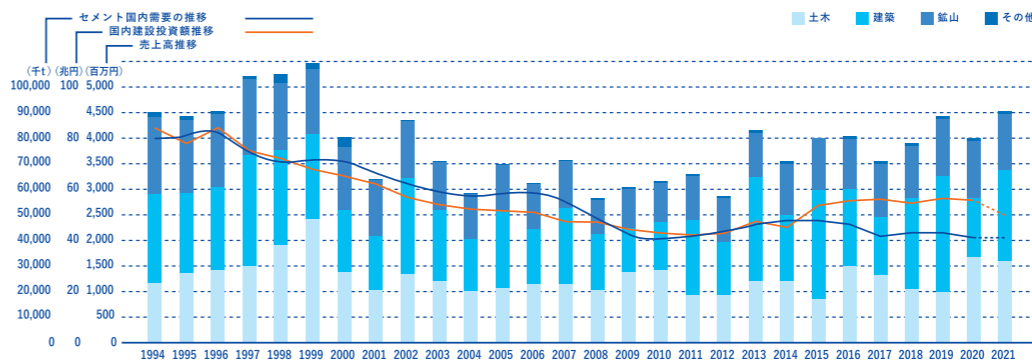
関西硝油株式会社
代表取締役社長 岡部 憲治 様

コスモ石油のガソリンスタンドを県内5か所運営している関西硝油の岡部と申します。技工団さんとお付き合いは25年になります。山口市内初となるセルフガソリンスタンドと整備工場を建設して頂きました。今ではセルフは当たり前ですが当時はすべて初めての試みでした。技工団さんの行政や監督官庁との調整があつてこそ短期間でのオープンが出来たと感謝しています。お陰様でセルフ湯田店は当初の5倍の売り上げを上げることが出来全国的にセルフの成功事例と評価され多くの見学者が来られるお店に成長しました。セルフSSは多くの業者が係わる特殊な建物ですが、素晴らしい工程管理と綺麗な仕事をして頂きGIKODAN品質を体感しました。それから全てのスタンドの改造新設を技工団にお願いしています。また昨年当社の新部門として24時間フィットネスを立ち上げました。米国のフランチャイズで規制が厳しく、調整が難しい工事でしたが素敵な建物を作って頂きました。技工団さんはスターバックスも建築されていますのでその経験が生かされていると思いました。アメリカのエニータイトフィットネス本部も技工団の仕事で大変評価していました。これからは技工団さんと共にお客様に質の高いサービスを提供して参りたいと思います。75周年おめでとうございます。

会社概要

社名	株式会社 技工団	事業内容	[土木部] 土木工事の設計・施工・維持管理 道路、トンネル、橋梁、ダム、上下水道、宅地造成、鉄道、景観整備、公園、共同溝、ソーラー設備、地盤改良工事など [建築部] 建築工事の設計・施工・維持管理 オフィスビル、店舗、医療・福祉施設、集合住宅、戸建住宅、学校、スポーツ施設、その他施設など [鉱山部] 石灰石鉱山の採掘・積込・運搬・関連工事など宇部興産伊佐鉱山、太平洋セメント重安鉱山、宇部興産河田鉱山 [その他] 不動産賃貸、その他
本社所在地	753-0078 山口県山口市緑町6番13号	技術資格者	技術士(建設部門) 1名 一級舗装施工管理技術者 4名 技術士補(建設部門) 2名 屋外広告士 1名 コンクリート診断士 3名 推進工事技士 9名 MEメンテナンスエキスパート 2名 乙種上級保安技術職員 3名 一級土木施工管理技士 31名 鉱山露天採掘保安管理士 11名 一級建設機械施工管理技士 6名 甲種火災損取扱保安責任者 40名 一級建築士 8名 公害防止管理者 3名 一級建築施工管理技士 9名 宅地建物取引士 1名 一級管工事施工管理技士 1名 一級建設業経理士 1名 一級造園工事施工管理技士 5名
創業	1946年5月5日	主要取引先	国土交通省・日本下水道事業団・防衛省・法務省・農林水産省・山口大学・NEXCO西日本 J R西日本・JA・山口県・山口市・宇部興産・太平洋セメント・ブリタストン・コマツ・中国電力 ほか民間企業・団体・個人
会社設立	1948年3月5日	表彰	国土交通大臣表彰(優良公共建築) 国土交通省中国地方整備局長表彰(優良工事) 国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所長表彰(優良工事) 山口県知事表彰(優良工事) J I A 日本建築家協会会長表彰(25年賞)
代表取締役社長	作間悦次	■売上高の推移・国内建設投資額の推移・セメント国内需要の推移	■事業所等
許可・登録など	建設業許可 山口県知事許可(特-1)第22382号 一級建築士事務所登録 山口県知事登録L第344号 品質マネジメントシステム ISO9001:MSA-QS-1186 環境マネジメントシステム ISO14001:MSA-ES-724 労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001:MSA-SS-61 地域建設業のBCP事業継続計画 国土交通省中国地方整備局長認定 第(3)R1-074号 産業廃棄物処理業許可(収集・運搬)第03505105686号 山口県屋外広告業登録 山口県知事第365号	<ul style="list-style-type: none"> □ 本社 山口市緑町6番13号(ドコモ山口市ビル隣り) □ 鉱山部 美祿市伊佐町伊佐(宇部興産伊佐工場内) □ 平川資材センター 山口市黒川2269番地(NAP隣り) □ 泉都町ハイツ 山口市泉都町10番21号(湯田交番裏手) □ 新山口オフィス 山口市小郡令和1丁目1番地1号 (J R新山口駅北口KDDIビル新ホールMegriba) □ 広島オフィス 広島市西区二葉の里1丁目1番72号 (J R広島駅新幹線口) 	
資本金	50,000千円		
社員数	115名(社員65名+鉱山部エリア社員50名)		

■売上高の推移・国内建設投資額の推移・セメント国内需要の推移



(2021年4月現在)